

2020年1月19日

福音書からのメッセージ

彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、「わたしたちはメシア——『油を注がれた者』という意味——に出会った」と言った。
(ヨハネによる福音書1章41節)

今日の福音書には、アンデレという人物が出てきます。ヨハネによる福音書の中では、イエス様の最初の弟子として登場します。彼はもともと洗礼者ヨハネの弟子でした。しかしある日、ヨハネがイエス様を見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言っているのを聞いて、イエス様に従います。そしてイエス様のもとに泊まり、彼がメシア、救い主であることを確信します。

そしてアンデレは、彼の兄弟であるシモンに会い、「わたしたちはメシアに出会った」と報告します。そしてシモンをイエス様の元に連れていき、イエス様に出会わせるのです。

シモンは別名、ペトロと呼ばれていました。聖書に出てくる弟子たちの中で、一番登場回数が多い人物です。湖の上を歩くエピソードや、「引き下がれ、サタン」とイエス様から怒られた話、鶏が鳴く前に三度イエス様のことを知らないと言ったのもこのペトロでした。

イエス様もペトロをかわいがっていたようです。山にお祈りに行くときも、十字架の前にゲツセマネで祈ったときも、ヤコブとユダを含めた三人だけを連れていきました。しかしアンデレはというと、これ以降目立った活躍はしていないように思えます。

しかし今日の福音書が伝えているのは、アンデレがいたからこそ、ペトロはイエス様に出会うことができたのだということです。アンデレがメッセンジャーとしての役割を果たさなかったら、ペトロの様々な物語はなかったのかもしれない。



本日、桃山基督教会では洗礼堅信式がおこなわれました。心に強く感じたのは、志願された方々は決して自分の力だけではなく、多くの人の導きによって今日の日を迎

えられたのだということです。時に迷い、悩み、戸惑った時に、すぐそばで祈ってくれる人がいました。陰で支えてくれる人がいました。一緒に涙を流してくれる人がいました。そして多くの方々の働きにより、志願された方々は神さまの元へと押し出されたのではないのでしょうか。

わたしたち一人一人も、アンデレと同じようにメッセンジャーとして召されています。わたしたちが日常の中で神さまを感じ、イエス様のぬくもりに触れたときに、そのことを周りの人たちに伝えることができたら、素晴らしいことだと思います。

たとえ聖書に名前が残らなかったとしても、他の人に比べたら小さなことだとしても、それでいいのです。その働きを、神さまは求めておられるのです。

「わたしは救い主に出会った」、その言葉を待っている人が、あなたのすぐそばにきっとおられます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>